

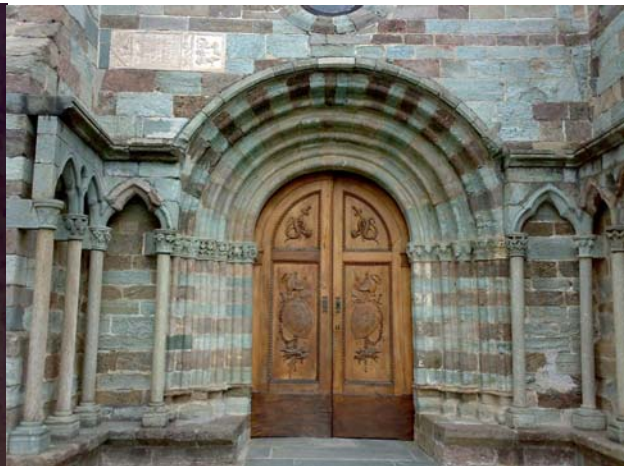
## サクラ・ディ・サン・ミケーレ修道院 — アヴィリアーナ（車での訪問）

ミラノから車でトリノに行きました。トリノには既に2回行っているのに、トリノに行くこと自体が目的ではなく、今回の第一の目的は、トリノの東42キロにあるサクラ・ディ・サン・ミケーレ修道院を訪ねることでした。ここに行くには、トリノから列車に乗ってアヴィリアーナ駅まで行き、そこからタクシーで標高962メートルの山の頂上にある修道院に行くしか方法がないので、とても、列車とバスの乗り継ぎではミラノからの日帰りは無理と考えていましたので、今まで行くことを断念していたのですが、今回は車で行けることになったので、喜んで参加しました。ミラノからこのサクラ・ディ・サン・ミケーレ修道院までは約3時間のドライブした。

サン・ミケーレとは、大天使聖ミカエルを拝した修道院を意味しています。キリスト教の4大天使の一人でもある大天使ミカエルは聖カテリーナと一緒にジャンヌダルクの前に現れて囁いた天使として有名です。ここは、イタリアからフランスにつながるスーサ渓谷を見下ろす標高962メートルの山の頂上に、西暦983年から987年の間に建てられた修道院で、現在はロスマニアン（Rosmanian Fathers）の修道院となっています。もともとベネディクト派修道会の総本山であり、12世紀にその頂点を迎え、たくさんの上流階級及び巡礼者に対する奉仕、及び、修道会の要として、その影響力は全ヨーロッパに広がり140の修道院を傘下に収めて100人以上の修道僧がいたそうです。フランスのモン・サン・ミッシェルと同じ系統の修道院で建物も良く似ているとのこと。実際に、同じ人（ピエモンテの僧のグリエルモ・ダ・ヴォルピアーノ）によって建てられたそうです。その後、1622年まで改修が重ねられていましたが、サヴォイア家の統制下、経済状況が悪くなり修道院は閉鎖されました。1836年に修道院は聖職者であり哲学者としても有名なアントニオ・ロスミーニゆずられ、それ以後、彼の宗教組織であるロスマニアンによって今日に至るまで引き継がれています。

修道院が建っている山は岩山であり修道院は山の岩を巧みに利用して建てられていますので、修道院の中も外にも山の岩肌が露出しています。それだけに、頑丈に作られているようです。10世紀に建てられた“死者の階段”と呼ばれる建物が一番下の部分にあり、周りの建物は10世紀から12世紀に建てられたロマネスク建築のシンプルな造りで非常に趣があります。その上に、12世紀から17世紀にわたって改修されたゴシック建築の教会が建てられています。教会の中には16世紀に描かれたフレスコ画がありました。全体の建物は下から見上げると天にもそびえるばかりの高さを感じます。教会のある建物の周りには、初期の建築物の一部が遺構として残されていて、それらも建物の全体像を際立たせています。これらの遺構は、戦時中に爆撃のターゲットとされて破壊されたものです。教会の下部には10世紀に建てられた食物の貯蔵庫や井戸も残っています。

修道院の入り口から、観光客の見学ルートもしっかりと決められていて、その通りに進むとすべてを見ることができます。そのルートのところどころに展望台があり、そこから眺める修道院の周り360度のパノラマは圧巻です。残念ながら、この日は曇り空で遠くのアルプスまでは望めませんでしたが、それでも、各展望台からの景観は感動ものです。ここは自然との調和のとれた素晴らしい修道院です。ここも、イタリアで強く印象に残ったところの一つとなりました。この修道院は、もちろん、世界遺産には登録されていませんが、世界遺産に匹敵する歴史的建造物であることは間違いありません。





アヴィリアーナ駅まではトリノから 25 分 (2.2 ユーロ) で、2 時間おき位に列車があるようです。但し、アヴィリアーナ駅から山頂までは 10 キロあります。それに加えて、標高 962 メートルまで登らなければいけません。従って、徒歩で行くのは非常に難しいと思います。また、駅からはバスも出ていないようですので、タクシーで行くしか方法はないようです。但し、タクシーは帰りも乗らなくてはいけないので、貸し切りとしておく必要があり全部で 50 ユーロくらいは覚悟しておくべきだと思います。ミラノからでは日帰りは難しいのですが、トリノを起点なら日帰りも可能です。ですから、列車を利用する場合はトリノ 1 泊を考えた方が良いでしょう。

駅からタクシーに乗るにしても、車で行くにしても、車 (タクシー) では、修道院まで徒歩で 5 分

くらいのはぼりを残したところにある駐車場までしか行くことができません。そこからのなだらかな登り道を約5分歩いて修道院に行きます。修道院の入り口で入場料4ユーロを払って中に入ります。観光客の見学ルートにそって歩き修道院の中を1周して入り口近くまで戻るのですが、そのルートの中には見どころがいっぱいあり、一回りするのに2時間は見といた方が良いと思います。チケット売り場にはプリントした日本語のガイドが用意されていますので、チケット売り場のおじさんに要求してください・要求しないと英語版を渡されてしまいます。忘れずに要求してください。

この近くには2つの湖と丘の上のお城がありますので、もしタクシーで修道院へ行くなら、その途中で、これらの観光名所も訪ねるような計画を立てるのも良いと思います。貸し切りのタクシーならそれほど金額は変わらないでしょうから有効に使ってください。

3度目のトリノでしたが何度来てもきれいな街です。ミラノと違った雰囲気は、周りの宮殿群から来るのだと思います。街全体に17, 8世紀の匂いがあります。今回は、そんな雰囲気に加えて、年末のトリノは暗くなってもどこに行っても人波であふれていてすごい活気がありました。あまりの人の多さに寒さも感じません。各通りにはクリスマスの飾りつけがとてもきれいで、広場には大道芸人、通りにはたくさんの屋台が並びとても賑やかで、日本にいるときと同じような年末のあわただしさも感じました。何となく、街を歩いているとウキウキした気持にもなってきました。寒い年末のトリノも味わいがあります。唯、一つだけ残念なのは、今回は白トリフを食べられなかったことです。また、次のチャンスを待ちましょう。

今回はミラノから初体験の車による移動でしたが車の便利さを再認識しました。それに、高速道路からの山々の眺めも素晴らしく、列車からの眺めよりもずっときれいで長い時間眺めていられることも知りました。運転する人は大変なのですが、乗っているだけの人には天国です。ここで、運転された人に、最大限の感謝の気持ちを伝えたいと思います。